

学術振興の観点から国立大学の教育研究と 国による支援のあり方を考える

日時：平成29年3月1日（水）13:30～17:00

場所：日本学術会議講堂

（地下鉄千代田線乃木坂駅5番出口すぐ・国立新美術館隣）

◇事前登録不要入場無料◇

日本学術会議では、国立大学を取り巻く昨今の状況を受け、学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方について審議を重ねてきました。今般、提言の素案の作成を行ったことに鑑み、広く意見を聴取するため、シンポジウムを開催いたします。

■プログラム■

1. はじめに

福田裕穂（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長）

2. 提言執筆者等による講演（タイトルは全て予定）

「国立大学改革—東京大学の取組—」

五神真（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）

「提言の骨子」

福田裕穂（前掲）

「国立大学の存在意義」

広田照幸（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）

「国立大学の財政と教育改革」

金子元久（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授）

「国立大学の連携—情報基盤の活用を中心に」

安浦寛人（日本学術会議第三部会員、九州大学理事・副学長）

「国立大学における人文社会科学の役割と今後の課題」

三成美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長・研究院生活環境科学系教授）

3. 行政関係者による講演

「国立大学を取り巻く諸情勢について」

鈴木寛（文部科学大臣補佐官）

4. パネルディスカッション

司会：福田裕穂（前掲）

パネラー：広田照幸（前掲）、金子元久（前掲）、安浦寛人（前掲）、三成美保（前掲）、
長野哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授・創薬機構客員教授）、
吉見俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環教授）、
鈴木寛（前掲）

5. おわりに

三成美保（前掲）

主催：日本学術会議学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による
支援のあり方を考える検討委員会

後援：文部科学省、一般社団法人国立大学協会